

地域



中村診療所

中村 肇

「人生会議」と聞いても、何のことか分からないという方が多いかと思えます。

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組みのことを「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」といいます。厚生

最期を見据え「人生会議」

労働省は昨年その愛称を「人生会議」とすることにしました。また11月30日(いい看取り・看取られ)を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日としました。

外来患者さんの過半数が後期高齢者となり、通院が困難になってきた患者さんは在宅訪問診療に切り替え

することも多くなっています。また病院ではなく自宅で最期を過ごしたいと希望されて在宅訪問診療を依頼されることもあり、人生の最期を病院ではなく自宅で迎えたいという方が増えてきています。

独居の方でも自宅で最期を迎えることを希望される場合があります。そのような希望をかなえるためには、地域の医療従事者、介護従事者、行政担当者や住民などの連携による支援が必要となります。

現状ではまだまだ人生の最期をどうのようにしたいのか意思表示できていない方は少ないかと思われます。日常の外来診療などではなかなかそこまで話し合う機会も時間もないところでは、患者さんが入院されたり、介護施設に入所されたりする時はそのようなことを話し合うよい機会になるかと思えます。

しかしながら認知症がはじまり自らの意思表示ができなくなってしまうのは遅すぎます。11月30日に話し合ってみるのも良い機会かもしれません。もしものときのために「人生会議」という標語が普及していくことを期待しています。(綴喜医師会)

介護関連施設から救急搬送されたが救命治療は希望せず、自宅に戻られたということもあります。自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

を期待しています。(綴喜医師会)